

金魚ちようちんの歴史紹介

しらかべ 津軽ねぶたや昭和初期など3匹

柳井市の観光名所、白二ユーアルされ、新たに壁の町並みにある「しらかべ学遊館」の展示がされた。特産品コーナーが設けられた。



その一角に、見た目が随分と違う金魚ちようちんが3匹展示されている。1匹目(写真左)は、青森県の「津軽ねぶた」である。柳井市の金魚ちようちんの原型であり、尾が立ち上がり、目の周囲に斑点がある。一説によると、この斑点は「水泡瘡のような流行病の痕跡である」とされている。厳しい口をしていて、西廻り航路の交易によって、幕末ごろ柳井津にもたらされた。

2匹目(写真中央)の、ちよつとこついで顔をしていのが、昭和初期の柳井金魚ちようちんだ。第2次世界大戦前の柳井金魚ちようちんを中原勲氏が復元したもので、尾が垂れている。ろうそくの火を灯して、お盆に先祖の霊を迎えたり、送ったりする際に持ち歩いた、という。



3匹目(写真右側)が、現在の柳井金魚ちようちんである。宗教的な意味合いが失せて、鑑賞のための装飾品になった。目や口が簡素な表現となり、ろうそくを灯さなくなつた。可愛い表情が人気を博し、柳井を代表する民芸品となつた。

世界初!! 柳井縞の法被

文具老舗店 木販賞文堂 店番や催事で着用し、柳井PR 昨年放送されたテレビドラマの「陸王」を見て、俳優の役所さんが羽織っていた法被(番組中では半纏)が気に入り、「柳井縞の法被」を作ったのが、木販賞文堂(柳井市中央3丁目)の木阪泰之社長だ。20数年前、柳井市にUターンした時、「白壁の町並みで暮らす人々が、昔の着衣で普通に仕事や生活をするだけで楽しそうだな」と思った記憶がよみがえつたという。

ひとたび思いつくと、誰にも止められない。早速柳井縞の会と協議し、法被製作の決意を固めた。

最近では、東京など国内はもとより、ブラジルや世界の山口県人会が所在する国、イギリスのロンドンなど、世界中から愛される民芸品となつている。(写真はしらかべ学遊館に展示されている3匹の金魚ちようちん)

柳井縞の人の話では「柳井縞で法被を作った人はこれまでいない。木阪さんが初めてです」という。世界初だ。そこでこの度、柄が違う法被を、柳井縞で3着作った。この法被は売り物ではなく、白壁通りで着用した木阪社長。

催事の時はもちろん、週末白壁本店で店番をする時にも着用するそうだ。法被の背中に入った賞文堂の文字は、柳井市を代表するイラストレーター「の檜垣圭子さん直筆の書を見て、刺繍したもの。これまでもたくさん金魚ちようちんグッズを作ってきた木阪さん。今回の柳井縞での法被づくりは、木阪さんの「柳井愛」を強く感じた。木販賞文堂は、創業125年の文具の老舗である。柳井市が行う「100年企業表彰」にも該当する。木阪社長は「授賞式にもこの法被を羽織って参加したい」と意気込んでいる。(写真は柳井縞の法被を着用した木阪社長)



業式を挙行。卒業予定者数(3月1日現在)は、238人(男子125人、女子113人)。日程は、平郡東小が3月17日(土)に、他の9校は20日(火)に行われ

- 次の通り。(開始時間は平郡東小が午前11時から、他の9校は午前9時30分から)
- ◎柳井小 93人(男子50人、女子43人)
- ◎柳東小 32人(男子16人、女子16人)
- ◎小田小 15人(男子8人、女子7人)
- ◎大畠小 14人(男子6人、女子8人)
- ◎平郡東小 11人(女子1人)

15周年で独自オペラを

たがせ少年少女合唱団 21日に記念コンサート 「ハミングエンジェル」として親しまれている、たがせ少年少女合唱団(伊場恭子団長)の15周年記念コンサートが21日(水)祝、田布施町下田布施の西田布施公民館で開かれる。13時開場、13時30分開演。入場無料。町教委と町文化協会の後援。エネルギー文化・スポーツ財団の助成。今回の記念コンサートは、4部構成で団オリジナルの編曲・作品で行う第1部は、合唱団編曲に唱歌メドレー「ふるさと日本」を、第2部は、山口県のわらべうたによる合唱シアターピース作品「かくれごせるもな」を、第3部は、「中学3年生による創作ソング」を、そして、第4部は「オペラ『ごろにゃんカンタービレ』」を初めて演じる。第4部のオペラは、10周年から毎年続けてきたオペラを今回、高校生が

通晴会長)主催 年度級位審査会 日、FUIR 学武道館(市武) 審査会には、 圏の各団体に